

MORI MORI PRESS

2014 9 vol.40

モリモリアレス

森田としかず(前埼玉県議会議員)

昭和49年9月熊谷市久保島生まれ
 広瀬保育園、熊谷市立玉井小・中学校、埼玉県立熊谷高校、
 早稲田大学政経学部、カナダ・マギール大学留学、
 早稲田大学大学院博士課程を経て…
 28歳・県議選初挑戦(23票差で次点)
 30歳・訪問介護事業開始 32歳・県議選初当選
 33歳・介護施設上川原んち開設 36歳・県議選2期目当選
 38歳・衆議院議員選挙初挑戦(55,663票で次点)

〒360-0831 熊谷市久保島1003-2
 tel.048-530-6001 fax.048-530-6002

 mori_morita  森田俊和

モリモリプレスとは!?

森田としかずのビジョンや政治に対する思い、地域活動の記録などを皆様にお伝えする広報紙です。

※バックナンバーはホームページからダウンロードしていただけます。



いつ私たちの「戦後」は終わるのか…?(前編) ~「昭和天皇実録」公開に思う~

■今夏ロシアから届いた死亡通知書…

今年も8月には、数々の新聞、テレビが先の大戦に関する特集を組み、終戦から69年経っても、まだ戦争の傷が癒えていないことを報道していました。

我が家でも最近戦争に関するできごとがありました。祖父の弟の死亡通知がロシアから日本に届いたと、県から電話があったのです。シベリアでの抑留中に亡くなった通知が、今になってロシアから来たということでした。(ただし、まだその通知は手元には届いていません。)終戦後に、今か今かと帰国を夢見ながら24歳という若さで旅立って行ったことを考えると、さぞかし無念だったと思います。ちょうどお盆の時期だったこともあり、改めて冥福を祈りました。

まだまだ私たちの戦後は終わっていないのだなど実感するできごとでした。

■「天皇実録」の公開

先日、宮内庁から1万2000ページに及ぶ「昭和天皇実録」が公表されたとの報道がありました。戦争遂行を巡って、軍部の暴走に苦悩された心情や、原爆投下、ソ連参戦を経て終戦を具体的に決定した経緯などが克明に記述されているとのことでした。

歴史を書き直すような新事実は含まれていない、とされながらも各紙が一面トップで扱うということは、それだけ国民の関心も高いのだらうと思います。そして、なぜ関心が高いのかと言えば、敗戦したという事実を、消化しきれていないという現実があるからだだと思います。

今回の実録に関して言えば、天皇の戦争責任を巡る問題も尾を引いているのではないかと察します。国民の中で、どの程度昭和天皇が戦争遂行に関わっておられたのか判断に悩むという状況がずっと続いてきたのだらうと思います。

大きな不幸は、統帥権が直接天皇に属すとされたこと



新聞各紙も大きな取り扱い(9月9日 読売新聞)

でした。大日本帝国憲法は「君臨すれども統治せず」というヨーロッパ式の立憲君主制を取り入れたわけですが、軍に関して言えば、直接関与せざるを得ない状況でした。重要な局面では御前会議を開いて軍の方針を決めていましたから、天皇の判断で軍を動かしたということになってしまいます。とは言え、国民世論を背景に開戦論が勢いをもっていた当時において、戦争を拒否することは難しかったと思われます。また、具体的な戦略や作戦については、軍サイドで作ってきたものを追認するという形だったでしょうから、判断を差し挟む場面は少なかったのだらうと推察されます。

戦後、昭和天皇は日本国憲法の下、軍はもちろん、政治とも関係を絶って平和の実現に努められました。戦前と戦



目で見える活動記録



打ち水大作戦

【8月3日】NPO法人エコネットくまがや主催の打ち水大作戦2014。ニャオざね、えんむちゃんも参加しました!



県北少年野球大会

【8月9日】第28回読売旗争奪県北少年野球大会。県内各地より、予選を勝ち抜いたチームが熱戦を繰り広げました!

後の姿のギャップが、「天皇の戦争責任」についてのとらえ方を難しくしているのだと思います。

■靖国神社の問題

国のために命を捧げた祖先に対して敬意を表すのは政治家ならずとも国民としてごく自然なことだと思いますが、時の総理大臣が8月15日に靖国神社を参拝するかどうか、外交問題にまでなってしまうというのは、不幸極まりない事態です。

その原因の一つは、戦犯の合祀だと思われます。戦争遂行を直接的に指導した、いわゆるA級戦犯をも神として祀っているのです。先の大戦を賛美している、あるいは戦争したことを反省していない、と受け取られることです。

もう一つの原因は、日本の宗教事情だと思います。日本には八百万(やおよず)の神がおられ、あらゆる自然やものにまで、神が宿ると考えられています。しかし、他国から見ると、靖国神社を参拝することは、かつての戦争指導者を絶対的な神として崇拝している、と受け取られるわけです。多くの参拝者にとって、そこまでの意味は恐らくないのだらうと思います。尊い犠牲となった方々に対し、感謝と尊敬の念を表しているというのが多くの参拝者の気持ちだらうと思います。



今年も多くの方が靖国神社を参拝しました

この2つの課題を解決するのは容易なことではありません。東京裁判の正当性を巡っては、様々な議論がありますが、敗戦の結果として裁判を受け入れざるを得なかったことは歴史的事実です。また、その結果をふまえてサンフランシスコで講和条約を結んでいるわけですから、戦犯の扱いについては、国際的な配慮が必要だということは否定できません。また、日本の宗教事情の件は折にふれて対外的な説明を重ねる必要があるでしょう。(次号へ続く…)

INFORMATION

■明るい日本を創る座談会

9/30(火) 午後1:30～
いわさき歯科研修室にて
熊谷市本石1-96

→ご参加の際は事務所までご一報ください。

■街頭演説

9月21日(日)
11:00～八木橋東口前
11:20～熊谷駅北口
11:45～埼玉りそな銀行行田支店前
12:20～羽生市中央三丁目交差点
12:50～加須市役所入口交差点

→日時は都合により変更する場合があります。
応援していただける場合には、事務所まで
ご一報ください。

子どもたちと共有する時間の大切さ ～学校行事の意義～

娘たちが通う小学校において、PTA会長としてお世話になっておりますが、今夏も例年同様、夏休みに奉仕活動とサマースクールを開催しました。親子で時間を共有し、親の背中を見せる機会を持って



保護者が総出で草取りを行いましたことは大変貴重なことと思います。

熊谷市の野原晃教育長は、「子どもは親の言ったようにはやらない、親のやったようにやる」とおっしゃっています。学校や地域のために活躍する姿を見せることは絶好の「背中を見せる」機会になることでしょう。

現在、他校の事情も聞くと、PTA役員をじゃんけんやくじ引きで決める場所も多くなっているようです。時間的な負担のことが先行してしましますが、子どもたち、また学校や地域のために時間を割いて活動する姿は、きっと子どもたちの目に輝いて見えるでしょう。何より活動を通じて、他の保護者や先生、地域の方々との関わりを持ち、新たな気づきや学び、人脈を得ることができるのは親にとって一番大きなメリットだらうと思います。負担もあるけれども、大きなものを得ることもできるのです。

学校教育を支えるのは先生方や教育委員会だけではありません。親である私たちが少しずつ関わりを持つことで、充実した教育が可能になり、粉にまみれて皆で延ばします地域も良くなっていきます。私も一保護者として、これからも積極的に関わりを持ち続けていきたいと思います。



親子でうどん打ち



活動報告



各地にて(熊谷→行田→羽生→加須) 8/31



座談会
熊谷市佐谷田地区
佐谷田神社社務所にて 8/26